

産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター

1. 概要

世界に先駆けて全受精卵への臨床応用を開始したタイムラプス胚培養も8年目となり、多胎防止を含む生殖補助医療の質的維持を今年も達成できた。国内外の学会での新知見発表には聴衆も多く集まり、若手産婦人科医師や臨床検査技師のモチベーションを高めている。北見和久医師が、日本不妊カウンセリング学会で優秀賞を受賞した。

2014年は、外来・手術室・病棟にまたがる関連看護スタッフや事務職員等、院内全体の患者ケアが洗練されたものになったことを確認できる1年でもあった。難治性の患者さんが当院に集中するという理想的な傾向は続いている。このような患者さんが繰り返し治療を行い、見かけ上の数値を低く抑えているが、他院での反復不成功例がすんなり成功するなど、スタッフが技術の高さを確認できる機会も多かった。頻回不成功例に肥満や痩せが多いことにも着目し、妊娠分娩の安全性や生涯の健康増進にもつながる“妊活”の先をめざす健康な体づくりを推進した1年でもあった。

(部長 安藤 寿夫)

●生殖補助医療

(件)

2014年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	23	20	16	14	4	14	5
2月	18	15	10	13	2	7	1
3月	22	18	12	9	1	8	3
4月	25	24	13	16	4	8	4
5月	22	18	14	6	2	13	3
6月	19	16	13	9	3	12	4
7月	22	19	10	12	4	10	2
8月	22	21	16	15	3	7	2
9月	19	14	11	9	1	9	1
10月	35	33	25	18	6	10	4
11月	21	20	16	18	1	8	0
12月	19	16	6	6	1	11	6
計	267	234	162	145	32	17	35
妊娠率					22.0%		30.0%

多胎は0例。異所性妊娠1例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

●不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例） (件)

体外受精－新鮮胚移植	31 (0)
融解胚移植	34 (0)
排卵誘発	6 (0)
人工授精	3 (0)
習慣流産	1 (0)
タイミング法・その他	39 (0)
計（重複例を除く）	105 (0)